



明治八年
新出
錦取
第九号

昔三月の六日の夜、淀の小橋の
中程に、男女の衣類ぬぎ捨て
以て壺封のやき眞、情死と見ゆ
まど姿へ見へど、とどしとまけと
このあもと、尋て聞け西京の
上七軒の客舎なる

山浅内の若菜
と顔艶しき

倡婦と添遂る氣の遊男へ
散財花と、數千本、越北
野はほど近き、笹井町よて
鳥石の籠の鳥を若菜と、氣も食鶏の悪縁

互ひは好と鋤鋤で、身とぼしてうづはりの、思案未
今入者つぼり、せんごも身と水に、没て浮名流
と、わさこ子ぎる愚さとの噂のまことと、子画ス
水に、ささとのしうら名もさ
何とささ、こころまへん

みよ街誌

石和板

